

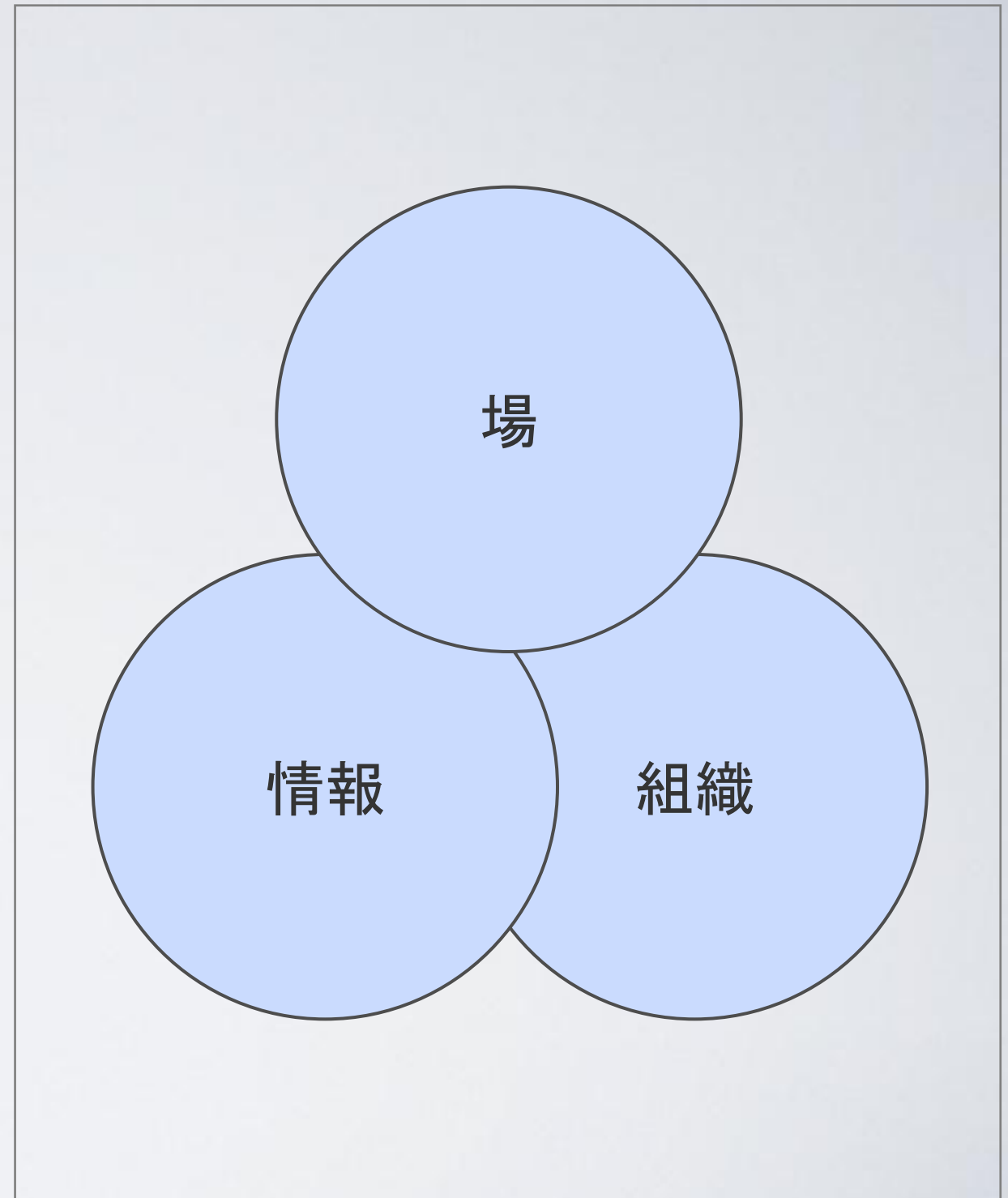
「これまで」と「これから」

2014.10.04

交流の森プロジェクトチーム

交流の森は、プラットフォーム。

- 交流の森は、住民創発プロジェクトをはじめ、まちの人たちの活動を支援するためのプラットフォーム。
- 交流の森プロジェクトチームは、プラットフォームをつくるためにできたチーム。
- プラットフォームとは、場・情報・組織がセットになったもの。
- プラットフォームがあれば、つながる、広がる、生まれる。



活動の記録―①交流イベント

まちのみんなが気軽に集まれる場がほしい。

2013.10～	交流の森相談窓口開設@あおばフレンズ
2013.10.20	第1回ラウンドテーブル会議
2013.12.21	第2回ラウンドテーブル会議
2014.6.22	たまプ楽食ワークショップ

気軽に集まれる



活動の記録―②勉強会

継続的、体系的な勉強会の必要性を実感。

2013.11.5	Facebook勉強会(ニューロマジック)
2014.1.19	ファシリテーション勉強会(石塚計画デザイン)
2014.3.30	NPO起業勉強会(ETIC.)
2014.8.22	生きがい就労事業勉強会(柏市)

活動の記録―③先行事例の視察

運営体制・組織の重要性を学ぶ。

2013.12.11	世田谷トラストまちづくり見学(シェアスペース運営)
2014.1.24	武蔵野プレイス見学(シェアスペースの機能)
2014.2.28	シェアリーカフェ見学(コミュニティカフェの運営)
2014.9.12	小田原電力見学(ファンドの構造)

活動の記録―④場作りワークショップ

建築家の末光さんと一緒にワークショップ。

2014.2.2.	第1回場作りワークショップ(現状分析・したいこと)
2014.4~	コアメンバー会議スタート(横浜市・東急電鉄)
2014.5.18	第2回場作りワークショップ(公園○○)
2014.6.15	美しが丘公園フィールドワーク

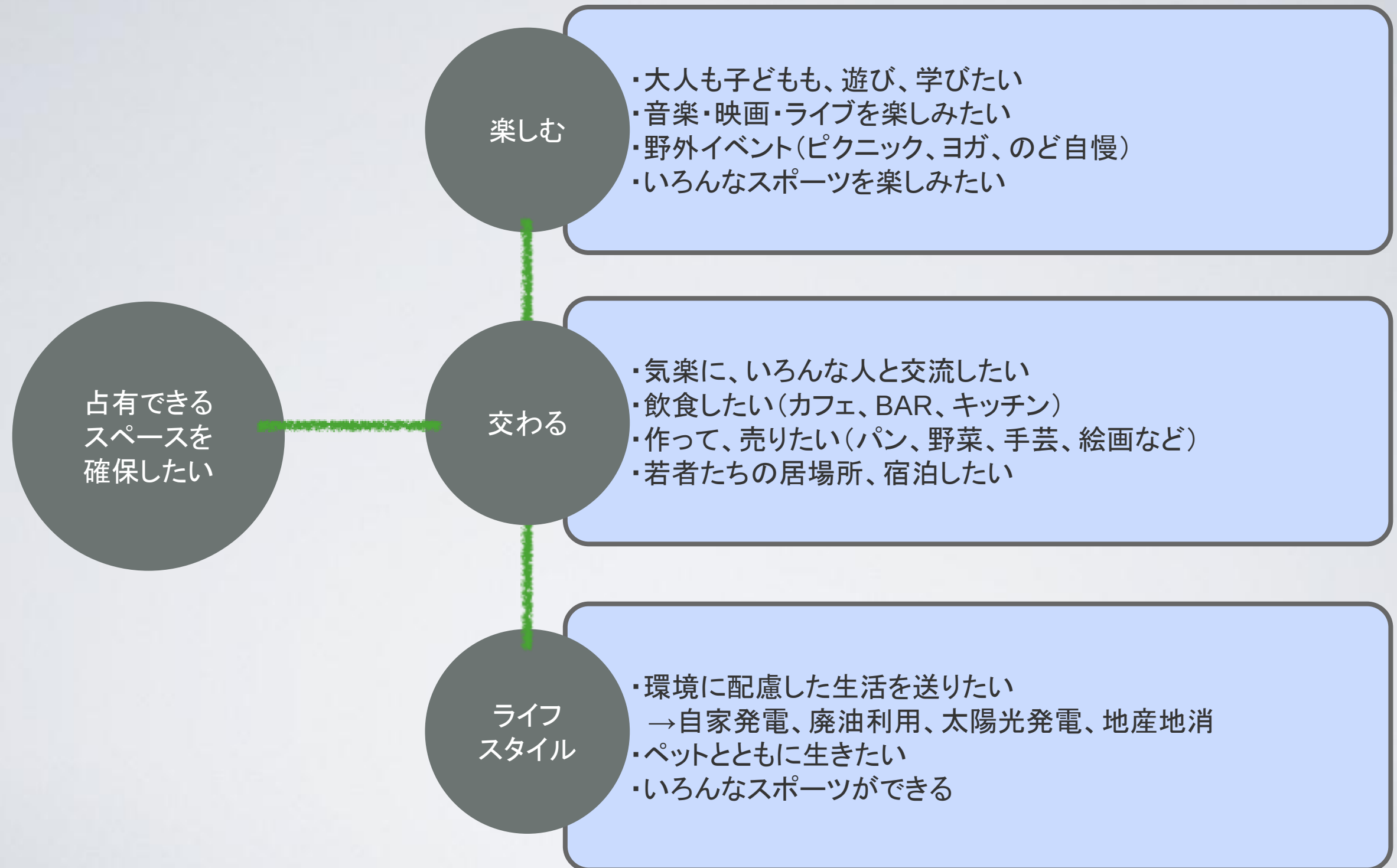
活動の記録―⑤企業連携

企業連携、10月以降、本格化します。

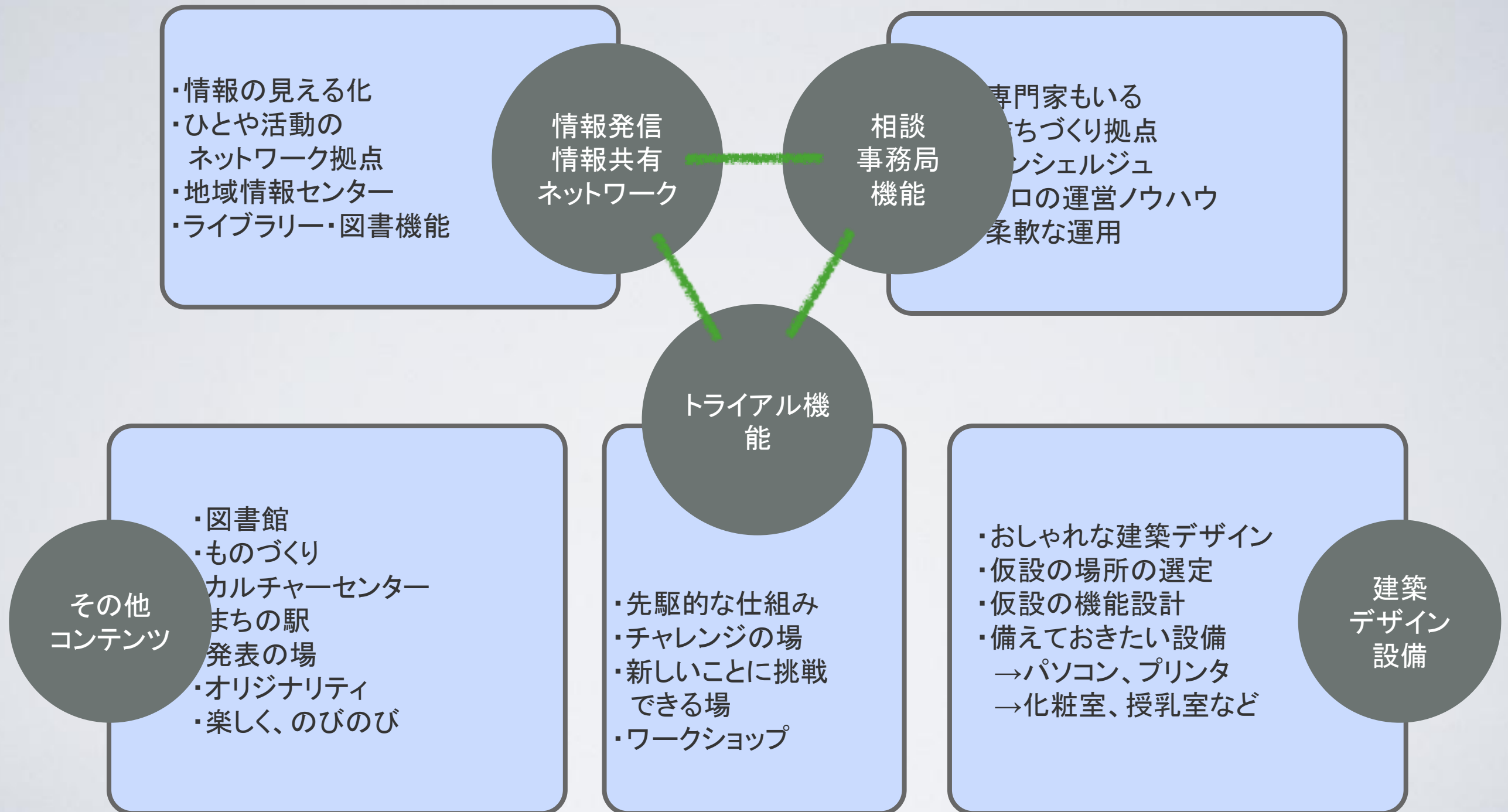
2014.4.5	街路樹マッピングパーティ(住友林業)
2014.7.10	子育てママワークショップ(たまロコ×コクヨ)
2014.10~	たまロコ × コクヨ・パソナテック
	オールたまプラ健康づくり × ダイエットアプリ
	たまプラフレンズ・たまプ楽食 × シャープ

場作りワークショップ

第1回場作りWS「こんなことしたい」



第1回場作りWS「こんな機能ほしい」



第2回場作りWS

①
前回
アイデア
整理

②
中心機能
抽出

③
想定条件
など
情報提供

④
ワークショッ
プ
公園〇〇



住民創発グループヒヤリング

ヒヤリング項目

① 10月以降の活動方針。

② 課題(不足しているものは何か)

③ 場の必要性。

④ 情報に対する期待。

⑤ 運用組織に対する要望。

ヒヤリング整理①「10月以降の活動方針」

◆活動について

- ・何かはやりたい
- ・緩やかに/今までのように長く緩やかに続ける
- ・事業として行う(新規/継続)

◆ムーブメント

- ・田園都市線沿線、横浜全体に広げていきたい

ヒヤリング整理②「不足していること」

◆活動そのものに必要な

- ・人手、時間、アイデアのブレスト、運営資金

◆活動継続・ステップアップのための組織体制

- ・広報／営業／会計／
- ・事業資金調達（助成金申請等）

ヒヤリング整理②「不足していること」

◆つながりをつくること

- 本来に来たい人／来て欲しい人
- 大勢の人
- 関心の低い人（コア→ミドル→ライト）

- 学校／地域／市民とつながる
- まち以外の人とつながる

ヒヤリング整理③「場の必要性」

◆既存の場所を活用

- ・3丁目カフェや美中、美小 等

◆目的・機能を持った『場』なら欲しい

- ・見守りコールセンター
- ・アート展示の拠点
- ・インフォメーションセンター
- ・油の回収拠点と話し相手の常駐
- ・次世代郊外PJネットワークの維持のための事務局

ヒヤリング整理④「情報に対する期待」

◆情報発信が必要

- ・リアルな掲示板（バスロータリーの壁面利用）
- ・外部への告知
- ・情報発信／広報／プロモーション
- ・紙媒体（地域新聞／フリーマガジンの発行）
→専門でやってくれる人がいれば、、、

◆情報の集約化

- ・活動のアーカイブ化
- ・利用できる場所情報の一覧

ヒヤリング整理⑤「運用組織に対する要望」

◆参画の意思

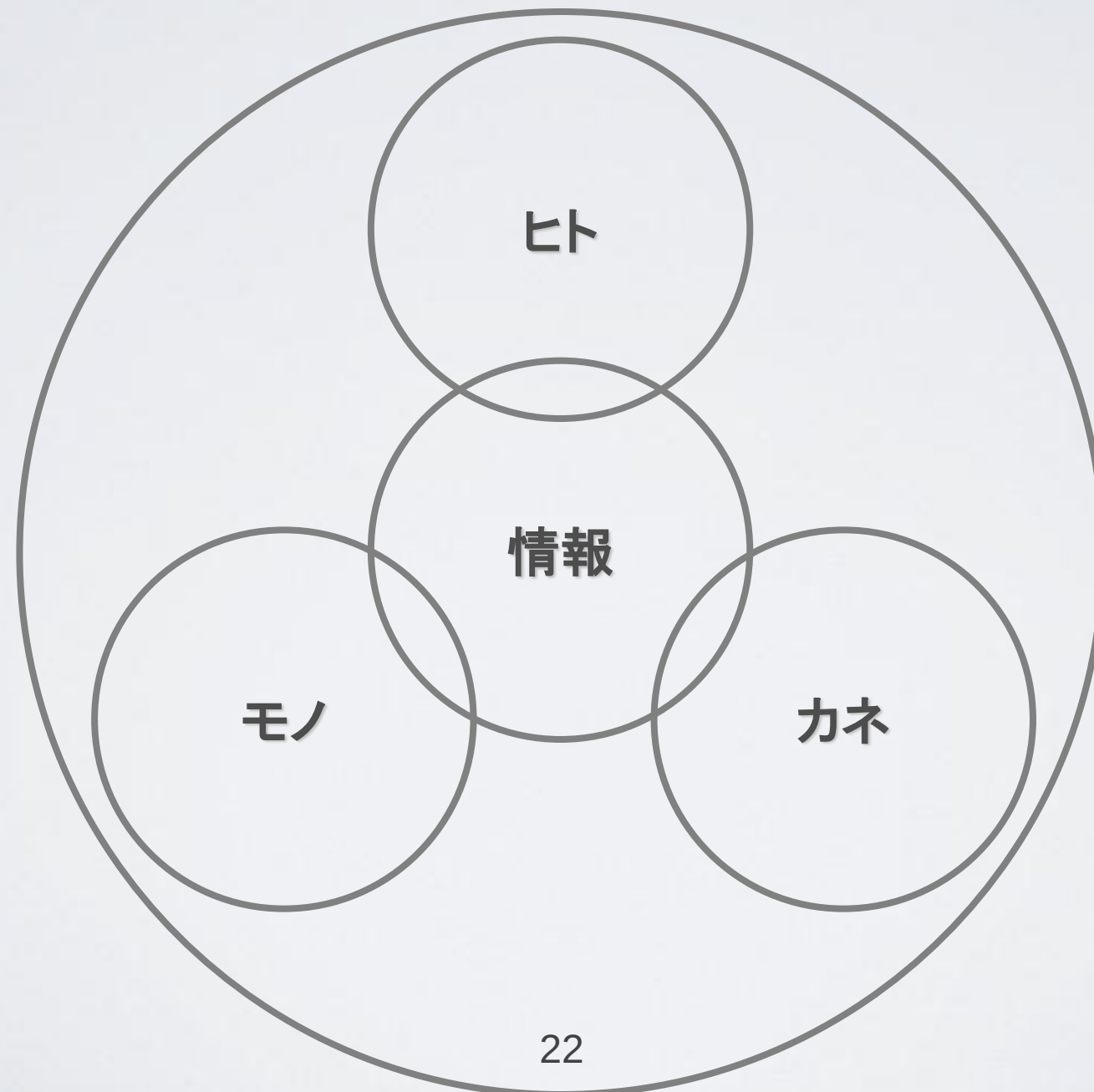
- ・参加意思あるが、事務局までは担えない
- ・事業の一部を仕事で請け負う形なら参加できる

◆要望

- ・企業と地域との連携の窓口
- ・まちづくり基金の運用協力
- ・講演会やシンポジウムの開催協力
- ・企画実現のサポート
- ・専門性をもつ
- ・まちづくり会社等組織のイメージがわからない

ヒヤリングまとめ

続けるためには、何かが、足りない。



10月以降の展開

プロトタイピングを進めます。

- 計画ができてから、場＝スペース、情報＝システム、人＝組織をつくるのではなく、試作・仮設を繰り返しながら、計画をつくっていく進め方。

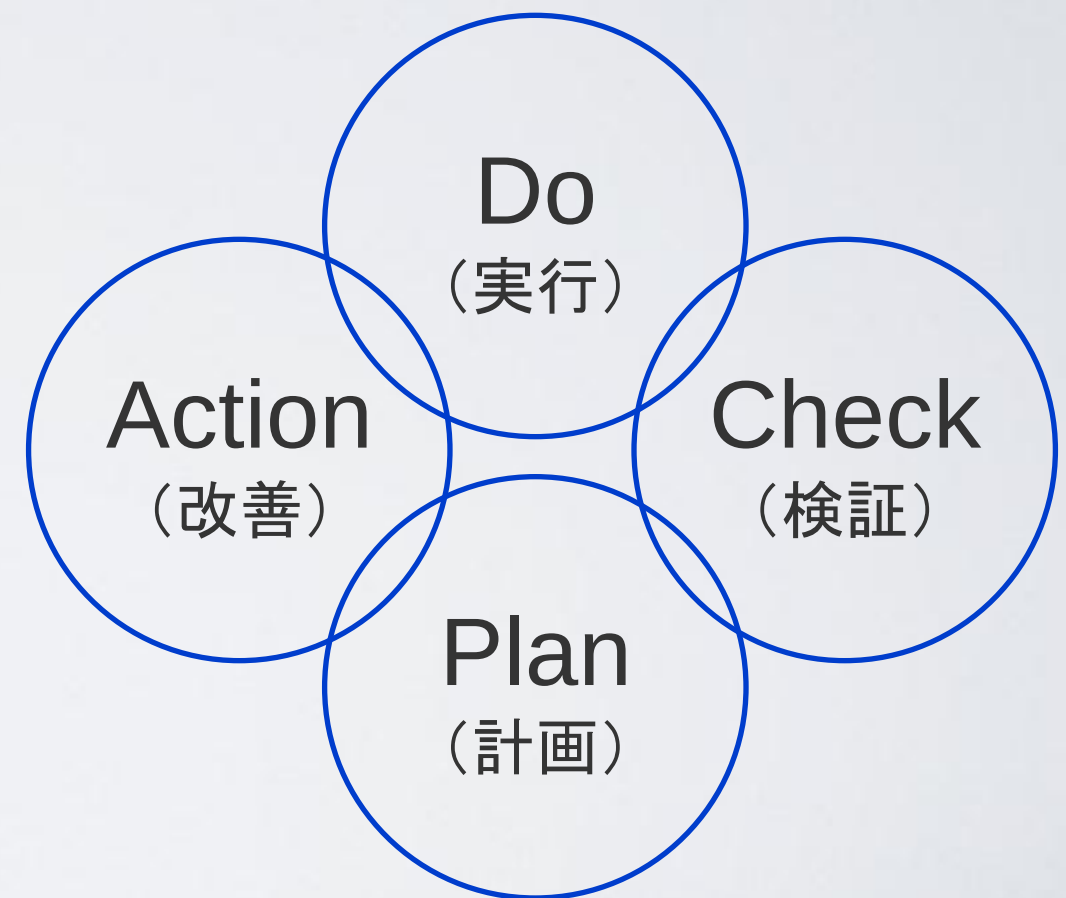
① 場・情報・組織、同時に行う。

② 当面のゴールの共有。

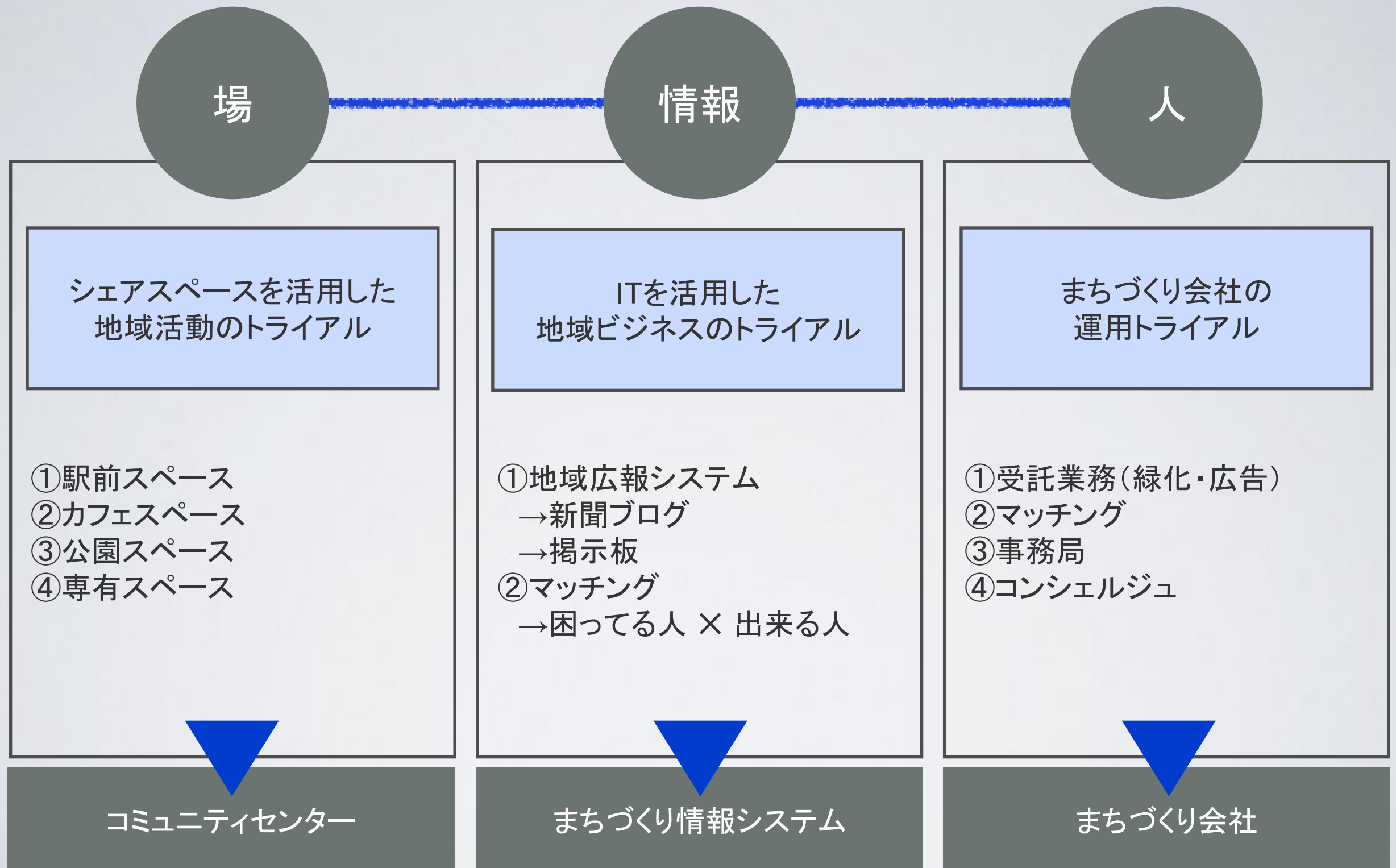
③ あくまでも試作・仮設レベル。

④ まち全体を巻込む。

⑤ プロセスの見える化。



場・情報・人、同時にプロトタイピング。



POINT-1「リーチ」

地域に、もっと広く、もっと深くリーチするメディア

銀のあん
かき氷屋跡地

無印良品のとなり

場

情報

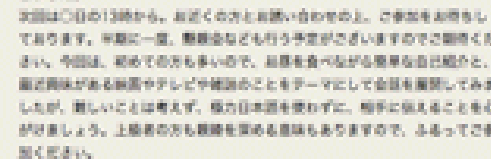
新聞ブログ
(デジタル＋アナログ)

バス乗り場に掲示板

銀のあん「かき氷屋」跡地



● 發行所：由利製鐵工業株式會社
● 印刷所：由利印刷株式會社
● 印刷時間：昭和四十四年三月
● 印刷部



しました。インターネット文化や情報の発信の都府で、半世紀以上の発展を得てきてきた。これら各都府の活用と創造力。活用アプリケーションの開発が世界的に誇ります。

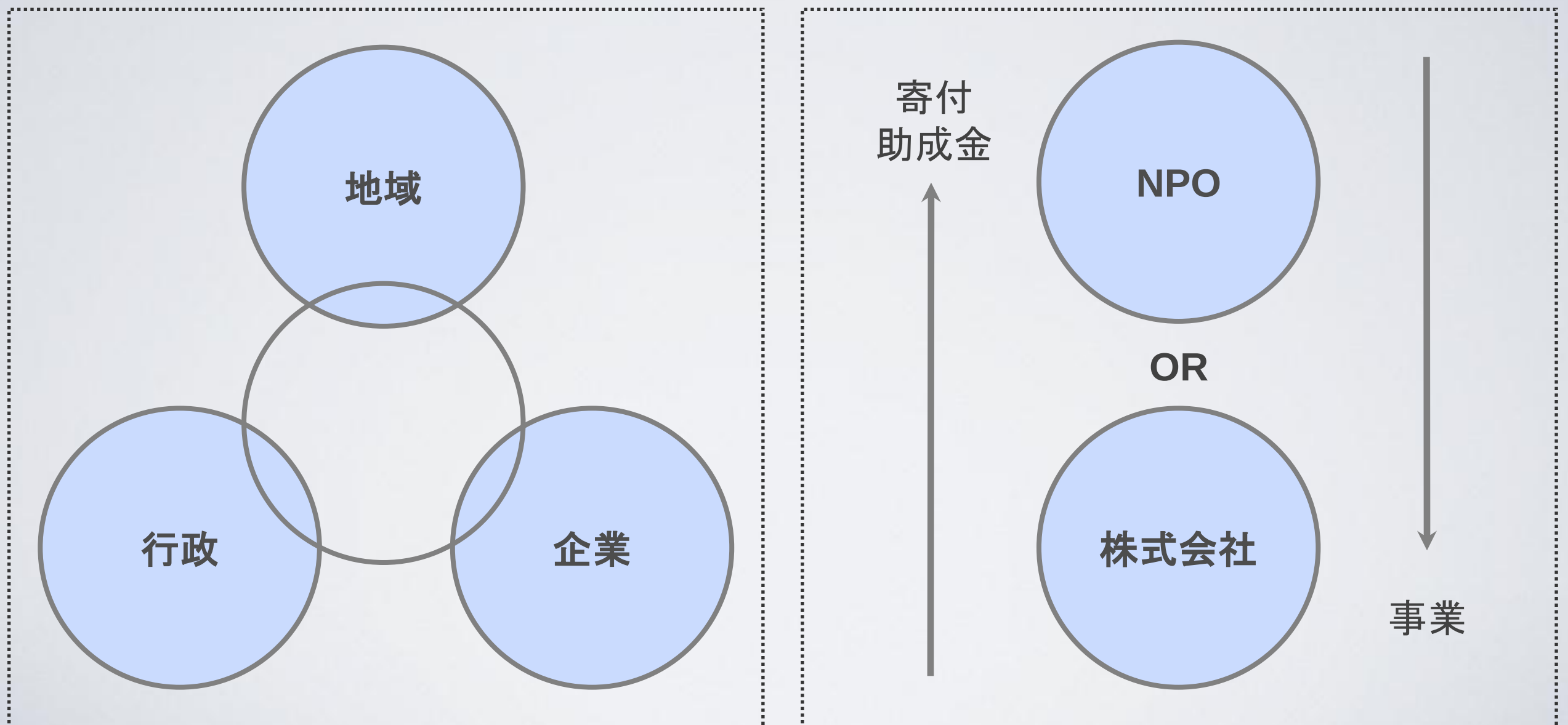
加えてセンサーなど新技術の活用によって、簡単なサンプルを作成することができます。これから最先端の技術の活用。これら各都府の活用と創造力。活用アプリケーションの開発が世界的に誇ります。

また、各都府は各都府で最先端の技術を活用し、活用と創造力。活用アプリケーションの開発が世界的に誇ります。



POINT-2「つなぐ組織」

リーチするための組織づくり



さいごに

交流の森プロジェクトチームは
たまプラフレンズ、あおばフレンズ
などと連携しながら
新たな「つなぐ組織」となります。